

## 平成 22 年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度の5つの重点課題のうち、学習活動では「自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、定着」を目指し、互見授業や授業アンケートの実施および基礎計算力テストに目標値を設定するなど、様々な方策を試みた。そのなかには、目標値と結果とが乖離したものがあり、学校評議委員会でも指標として適正であったかが議論された。学習活動については、意図した結果は十分に得られなかったが、電気工事士1種の合格者が過去最高となり、またリスニング検定の3級以上の合格者数も、100名を超えるなど、資格取得の面では着実な学習の成果が得られた。

生徒指導では、怠惰による年間遅刻率を生徒一人につき年間0.3回以下を目標に取り組んだ。遅刻を繰り返す生徒に対する指導を粘り強く継続した結果、総数で昨年比20%以上減少し、目標を達成した。また、登下校の交通事故に関しても、啓発活動の成果により1月末現在で8件と目標を達成した。今後も生活習慣の安定に努めてより一層の減少を図りたい。

進路指導に関しては、インターンシップの満足度も高く、専門性を生かせる進路の選択も目標を達成した。インターンシップの有効性が改めて確認された一方で、不況の中、インターンシップの受け入れ先の確保が次年度の大きな課題である。

特別活動を活性化させる取り組みとしては、部活動内容の満足度と学校行事の充実感に対するアンケートを実施し、マンネリ化や形骸化しつつある部活動や学校行事の内容の見直し改善を行った。結果は、部活動や学校行事への満足感がともに85%を超える高い値が得られた。中でも、本校の最大行事である「尚美展」では満足したと答えた生徒の割合約90%であった。

次年度以降も部活動の活性化と学校行事への積極的な取り組みへの意識の高揚を図り、学習と部活動、奉仕・体験活動などの特別活動を両立させるよう努めたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、平成22年度から、二上工業高校と高岡工芸高校の再編統合により、新しい高岡工芸高校としてスタートした。新高校は、機械、電子機械、電気、建築、土木環境の工業系の5学科に、工芸科、デザイン・絵画科の芸術系2学科を加えた総合的な工業高校となった。7つの学科が力を合わせ、地域のものづくりの拠点校として優れた人材を輩出すべく、教育目標や教育課程を定めたところである。教育目標を達成するためには、その根幹となる学習指導、生徒指導、進路指導の充実が不可欠であり、より実践的な取り組みが必要となる。

このため、学習指導については、わかる授業の実践、学習意欲を高める工夫など、さらなる授業の改善や質の向上に努めたい。また、生徒指導については、学校と家庭との情報の共有を図り、高校生としての節度ある行動・態度がとれるよう人格形成に努めたい。進路指導については、インターンシップの実施により企業・地域との連携をさらに深め、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努めたい。

今後とも様々な活動を通じて新しい学校に相応しい魅力ある学校づくりを推進していきたい。

重点項目	学習活動		
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣がない生徒が多い。学ぶ意欲を高め、学ぶ姿勢の改善に向けた働きかけが必要である。</li> <li>・また、授業の指導においても工夫・改善を図り、よりわかりやすい授業を追求する必要がある。</li> <li>・中学校程度の基礎的な計算力を確実に身に付けさせるため、本校独自の基礎計算力テストを実施してきた。ただし、正答率があまり向上していないため、より効果的な対策が求められる。</li> <li>・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施し、生徒の資格取得への積極的な取り組みを支援している。</li> <li>・生徒に対して全科目のシラバスを公表し、わかりやすい授業の実施に取り組んでいる。</li> </ul>		
達成目標	互見授業と授業アンケートの実施	基礎計算力テストの実施と分析	
	授業見学およびアンケートを年1回以上実施	年2回実施、正答率80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導計画において、指導方法を工夫・改善する単元や学習項目を明記する。</li> <li>・他の教員の授業を見学し、授業改善の参考とする。</li> <li>・生徒に対する授業アンケートを実施し、生徒自身の学習態度の振り返りの機会として、学ぶ姿勢の改善を図るとともに、指導者の授業改善にもつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた基礎計算力テストを継続して(4月と年度末の2回)実施する。</li> <li>・すべての生徒が80%以上の正答ができるよう関係教科・科目で指導する。</li> </ul>	
達成度	<p>互見授業 2月4日現在、教諭47名のうち、22名実施済み(実施延クラス数32クラス)…実施率47% 2回以上実施した人数…8人、1回だけ実施した人数…14人</p> <p>授業アンケート 2月4日現在、教諭47名のうち、17名実施(25科目、実施延クラス数49回)…実施率 36%</p> <p>基礎計算力テスト 第1回は4月19日(月)に実施し、8割以上正答した生徒の割合は8%であった。第2回は2月24日実施予定のため、達成度については、その結果を踏まえて出すこととなる。</p>		
具体的 な取組 状況	<p>授業見学は、昨年度までは公開授業の実施を目標として推進してきたが、今年度は、他の教員の授業の見学を推進することを目標に切り替えて実施した。</p> <p>授業評価については、授業担当者が自ら質問項目を設定して、担当する生徒に対してアンケートを実施するものとした。</p> <p>基礎計算力テストは、全ての生徒が80%以上正答できるようにという目標を設定した。</p>		
評 価	D	互見授業の実施については、実施の方法を変更したこともあり、昨年度同期の84%に比べ下落した。また、授業評価についても、昨年度同期の60%に比べ、減少した。	C 第1回の結果では、8割以上正答した生徒の割合が8%(270人中21人)であった。また、7割以上正答の生徒の割合で見ると23%(270人中62人)であった。第2回の結果は向上は見られたものの、若干にとどまった。
学校関係者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ学習態度の育成について、様々な面から工夫してほしい。</li> <li>・目標値の設定は適正であったのか、生徒の努力が足りなかったのか、少し分かりにくい結果となった。次年度は、適正な指標となるよう工夫してほしい。</li> <li>・資格取得に積極的に取り組ませ成果をあげていることなど、他の指標も考えられるのではないかな。</li> </ul>		
次年度 へ向けての課 題	<p>互見授業については、数値目標を授業公開回数から見学授業回数に切り替えたことから、昨年度の結果と単純に数値としての比較はできない。今年度の方法で、より多くの教員が実施することで、授業改善に効果的と考えられるので、推進を継続すべきと考える。一方、授業評価については、定着している面もあるが、他の方法も含め、効果のある方策の検討が必要と思われる。基礎計算力テストは、分析方法を変更した。実施予定の第2回の結果を踏まえて、80%以上正答する生徒の人数が100%に近づくよう、関係教科・科目において、学習指導方法の検討をすすめたい。</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活		
重点課題	安定した生活習慣の形成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は261回（一人当たり年間 0.44回）で、そのうち、2回以上遅刻している生徒が52人、のべ187回で全体の71.6%を占めた。遅刻癖のついている生徒に対して、安定した生活習慣の形成を目指す必要がある。</li> <li>・昨年度、登下校時の交通事故は16件であった。一昨年度より7件の増となった。自転車と自動車による接触がほとんどで、自転車運転時の交通ルールの徹底を図り、より安全な登下校を促すよう指導する必要性がある。</li> </ul>		
達成目標	寝坊や怠惰により遅刻する生徒の割合	登下校時の交通事故	
	一人当たり年間 0.3回以下	年間10件以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ運動」の継続実施。</li> <li>・遅刻ゼロ週間を設け、基本的な生活習慣の定着を図る。</li> <li>・月3回以上の生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、改善を図る。</li> <li>・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。</li> <li>・警察署などから講師を招き、交通安全教室を実施し、意識の高揚を図る。</li> <li>・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。</li> </ul>	
達成度	1月末現在の寝坊怠惰による遅刻総数は、192回(昨年同時期243回)となり、一人当たり0.29回となっている。	残念ながら、1月末現在で8件の交通事故が発生した。	
具体的な取組状況	今年度から、年間を通して3回以上遅刻した生徒に対して、清掃活動を課すようにしたところ、3回以上遅刻した生徒は13人(昨年32人)に減少した。	全校集会で機会あるたびに注意喚起したり、朝のST時に担任を通して平日頃より、交通安全について注意している。	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同期に比して、遅刻総回数が20%程度減少したことは評価できる。</li> </ul>	B
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな事故もなく、年間10件の目標に対して、8件で済んでいることは、一定の評価はできる。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶものの態度として、生活習慣を安定させ遅刻しないというのは基本の基本である。次年度も指導の徹底を望む。</li> <li>・リスクマネジメントの観点に立てば、明日大雪になるという予報が出ればそれに応じて対応する。というような指導があっても良いのではないか。</li> <li>・事故の規模が小さいから良いという視点ではなく、いかに0件に近づけるかという視点で指導してほしい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻常習者については、家庭と連携し、正しい生活習慣を身につけさせたい。効果的な解決策がないのも実情であるが、粘り強く指導していきたい。</li> <li>・交通事故については、1年生で6件の交通事故が発生している。今後、新入生に対する交通安全指導を徹底したい。また、過去の交通事故発生場所を洗い出し、通学路ハザードマップを作成したい。</li> <li>・遅刻についても、交通事故についても、ゼロであるべきである。来年度に向けてさらなる指導をしていきたい。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援			
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>•各方面の協力を得て実施した2学年の「インターンシップ」に関するアンケートの結果は、「進路を考える良い機会になった」と回答した生徒が約70%であった。</li> <li>•昨年度、就職した生徒のうち専門性を生かせる企業に就職した生徒は76%、進学した生徒のうち専門性を深めるために関連分野の大学等へ進学した生徒は41%であった。</li> </ul>			
達成目標	インターンシップの満足度(2学年)		各学科の専門性を生かせる就職先、進学先の選択	
	80%以上		就職80%以上、進学60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>•2学年と協力し、各学科教科の専門性を生かした実習先の確保と選定に努める。また、生徒たちが、専門科目の学習を通して、より積極的に選択できるように指導する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>•1年時には、ガイダンスやホームルーム等を利用し、2年時にはインターンシップや実習等の授業で、また3年時には課題研究等の授業で「ものづくり」のおもしろさや意義を学ばせる。全学年通して専門性を生かせる進路を考える機会を与えてよりよい進路選択や進路先を決定できるようにする。</li> </ul>	
達成度	82%		就職(80%)、進学(4大・短大80%、専門学校42%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>•生徒がよりよい実習をできるように、新規の受け入れ先の開拓を行った。地場産センター内の高岡市の各地場産業の組合や長慶寺工場組合に依頼したりした。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>•1年生ではオリエンテーション、2年生では学年集会や進路ガイダンスを通して進路選択を考える機会を設けた。3年生においては学年主任や各クラス担任と進路指導部と連携しながら指導を行った。</li> </ul>	
評 価	A	事後アンケートにおいて、「実習先への関心が高まった」と答えた生徒が82%、「進路を考えるうえで参考になった」と答えた生徒が約82%	B	就職先及び進学(4大・短大)で80%
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>•インターンシップは、進路選択に極めて有効に機能しているようである。また、学校の特色作りにもつながっていると思われる。今後も継続を望む。</li> <li>•新興国が技術分野で急速に力を付けてきている。このような現状において、より確かな技術を身に付けさせてもらいたい。大学進学については、将来も見据え大学生活に対するあこがれからの進学など、安易な進路選択にならないようしっかり指導してほしい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	本校における全員実施のインターンシップの形態はほぼ完成しつつあるので、次年度以降においては中身の濃い実習ができるよう各受け入れ企業に依頼したり、新規の受け入れ先を開拓していく必要があるように思われる。		就職、進学(4大・短大)でほぼ目標数値を達成することができたが、専門学校進学者では42%しか今までの専門を継続して学べる学校を選んだ者がいなかった。決して安易に進学先を決定していると思わないが、生徒にしっかりと将来を考えさせる機会を与えたり、しっかり助言できる環境を整えていきたい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動			
重点課題	学校行事および部活動の充実			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。しかし、代議員による生徒議会を通じて、生徒の意見を聴取して活動に反映させるなどの、積極的な取り組みは十分とはいえない現状にある。</li> <li>・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は95%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。</li> </ul>			
達成目標	学校行事の満足度		部活動継続率	
	生徒アンケートで85%以上		85%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。</li> <li>・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。</li> <li>・各集会や生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。</li> <li>・各部の部員数調査を学期毎に行い継続率を調べる。そして、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</li> </ul>			
達成度	満足+ほぼ満足で評価 ・運動会 満足42.7+ほぼ満足49.2=91.9% ・尚美展 満足41.0+ほぼ満足48.3=89.3% ・球技大会 満足32.3+ほぼ満足49.4=81.7%		継続率 1学期→3学期(部員数の変動で比較) 運動部87.5% 文化部109.2% 全体 96.7%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒議会」の開催や代議員による事前アンケートの集約および行事内容についての連絡や説明、了解。</li> <li>・「生徒会便り」による広報活動。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で行っている表彰伝達や壮行会。</li> <li>・全国大会に出場する部の試合予定掲示。</li> <li>・「生徒会便り」による広報活動。</li> <li>・各部活動顧問および職員による生徒指導</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、尚美展は天候にも恵まれ高い満足率であった。</li> <li>・球技大会は雨天で、グラウンドの競技が、すべて体育館となり過密なスケジュールとなったことも目標を達成できなかった要因である。</li> </ul>	B	昨年より運動部の継続率が約2%減ったが、文化部では6%増加、全体では1%の増加である。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を持って活動し、達成感と評価を得るという体験が人を伸ばすように思う。今後も、学校行事や部活動に意欲的に取り組ませることは、達成感を得る良い機会になると思う。</li> <li>・部活動の加入率も良いし、成績も良い。このような質の高い部活動を行っていることは高く評価する。1年次必ず部活動に入部させることも検討しても良いように思う。</li> <li>・「とやまる君」(県交通安全協会マスコット:本校デザイン科2年の作品)をいたるところで見かける。今後も積極的にコンペなどに取り組ませてほしい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や諸活動の新聞記事などを生徒向けの掲示板に掲示し、工芸生の活躍を広く広報していく。</li> <li>・各行事のアンケートの意見を参考に、生徒会、代議員会で検討していく。</li> <li>・球技大会の実施時期を少し遅めて(11月中旬以降)、グラウンドの競技をなくして、体育館ですべての競技を行うことも検討する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活躍について掲示や広報活動をより行い、学校全体で部活動を盛り上げていきたい。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	情報機器の活用	
重点課題	視聴覚室やコンピュータ室の利用の増加	
現 状	<p>・昨年度の視聴覚室の授業での利用回数は延べ208時間、放課後の利用回数は記入してあるものだけで10回、その他の利用回数は延べ53時間であった。</p> <p>この数字は前年よりも増加していると思われる。ただ、パソコン室の利用は年度当初に授業に使うことを予約してあっても授業がなかったりすることが多く、一般教科の授業で利用されることが少なかった。また、情報機材の貸し出しもあまり多くなかった。</p>	
達成目標	<p>視聴覚室およびコンピュータ室の利用時数の増加</p> <p>10%以上</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚室のライブラリーの充実</li> <li>・コンピュータ室の有効利用のため、利用の予約を視聴覚室と同じ方法に改める。</li> <li>・コンピュータ室の授業支援ソフトや、各種情報機材の利用方法の講習を行う。</li> </ul>	
達成度	<p>コンピュータ室の追加予約利用時間が85時間あり、昨年度ほとんど利用されなかった一般教科での利用が大きく増加した。コンピュータ室の3部屋で見ると、約15%の増加である。</p> <p>さらに、視聴覚室の授業利用時間は1月末までで昨年の208時間を越え、今後さらに増加すると思われる。また、放課後の利用回数も記入してあるだけで28回。昨年より18回も多くなっている。</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三部屋あるコンピュータ室の利用予約の方法を視聴覚室と同様の予約方法に改めた。</li> <li>・コンピュータ室に新しく導入された授業支援ソフトの講習会を行った。</li> <li>・新しく購入された、スロー撮影が出来るデジタルカメラやハイビジョン対応のビデオカメラの取り扱いを個別に説明し、利用を促した。</li> </ul>	
評 価	B	<p>コンピュータ室や視聴覚室の利用がしやすくなったことによって、部屋の利用時間が増加したと思われる。しかし、今年度は視聴覚室のライブラリー充実にあまり時間とお金をかけることが出来なかったためB評価とした。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材で学習すると頭に入るし残る。更なる工夫を重ねて、活用を促してほしい。</li> <li>・現在は、動画による情報伝達が主流である。ものづくりは基本であるが、それをいかにプレゼンテーションしていくか、ということも求められている。今後ますますこの傾向は強くなると思われるので、視聴覚教材の活用を実践して行ってほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<p>コンピュータ室や視聴覚室をさらに利用していただくため、利用予約をグループウェアソフトを使ってネットワーク上で行えるようにする。これによって、部屋やライブラリーの管理が便利になり、利用する方もより一層利用しやすくなると思われる。また、今年度はあまり出来なかった視聴覚教材のライブラリーの充実やPRに向けて時間と予算を使って行きたい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)